

Richnerstutz 社、革新的リアルタイム人流監視ソリューションに Microchip 社の PoE ミッドスパンを採用

COVID-19 パンデミックにより各種の施設は来場者の安全を確保する必要性に迫られています。スイスを拠点とする IT イノベータである Richnerstutz 社がリアルタイム人流監視ソリューションに Microchip 社の PoE ミッドスパンを採用した経緯を紹介します。

COVID-19 パンデミックは、人々の日常生活と働き方に大きな影響を及ぼしました。集会人数の制限とソーシャル ディスタンスの確保は最も一般的な対策として今日でも世界中で実践されています。施設等への来場者の安全を確保するため、Richnerstutz 社(スイスを拠点とする IT イノベータ)は、特定エリアへの入場者数と退場者数を監視して入場制限を行うためのソリューションとして CountMe®を開発しました。

この革新的ソリューションは、監視エリアの各所に配置されたセンサを使ってエリア内の滞在者数をリアルタイムに評価し、制限を超える場合は自動的に入場を禁止します。このシステムでは各所に配置された多数のセンサに適切に給電する必要があります。センサの設置位置によっては電源の配線が困難な場合もあり、システムの設置に要するコストと時間を削減する事が必要とされました。

これを達成するため、Richnerstutz 社は CountMe の開発中に PoE (Power over Ethernet)の採用を決断しました。開発チームはベンダー間の互換性が保証された PoE システムを注意深く選定しました。顧客満足度を念頭に将来性のあるソリューションを構築するため、PoE ミッドスパンの信頼性が慎重に評価されました。また、COVID-19 による困難な状況の中で大量の高品質 PoE ミッドスパンを比較的短納期で供給可能なパートナーを見つける必要がありました。

様々な技術要件を検討した末に、Richnerstutz 社は PoE 関連パートナーとして Microchip 社を選びました。既存インフラストラクチャに全く手を加えずに CountMe Pro ソリューションの人流センサに信頼性の高い電源を提供するため、最終的に [Microchip 社のシングルポート PoE ミッドスパン PD-3501G](#) が採用されました。プラグアンドプレイ対応の PD-3501G を採用した事で、AC/DC 電源ラインを必要とせず既存の Ethernet インフラストラクチャのまま信頼性と対費用効果の高いシステムを容易に設置する事が可能となりました。

Microchip 社製ミッドスパンは CountMe Pro システムおよび Xovis PC2R センサとの互換性に優れると共に設置が容易であるため、システムのアップグレードも低コストかつ迅速に行えます。

2020 年、多数の CountMe Pro システムが世界各地の量販店、ショッピング センター、リゾート施設、学校、図書館、美術館、動物園、カジノ、ガソリンスタンド等でトラブルなく運用されています。

Microchip 社が提供するシングル/マルチポート PoE ミッドスパンの詳細は [こちら](#) でご覧ください。Microchip 社の PoE システム製品は柔軟性と信頼性に優れ、Ethernet ネットワーク経由で WLAN アクセスポイントや IP 電話、IP カメラ等の IP ベース機器に最大 90 W の電源を提供可能です。

CountMe ソリューションの [ケーススタディ](#) もダウンロードしてご覧ください。

Shruti Usgaonkar, Apr 7, 2021